

地域公共交通計画

《地域の移動ニーズに合わせた公共交通のデザイン》
 人口減少・超高齢社会に対応した**地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿**を明らかにするものです。

計画の方向性

- ① 過度自動車依存から脱却し、全ての人に優しい都市の実現に向けた第一歩として「**意外と便利な公共交通の認知・構築**」から着手します。
- ② 地域の実態に応じた**公共交通による移動を段階的に実現**します。（検討⇒実証⇒実現）
 まちなか(市街地)・拠点間 ⇒ バス路線の最適化による利便性・採算性の向上
 公共交通不便地域(中山間地域)⇒ 各地域の実情に応じた域内移動手段の確保
- ③ 100年に一度のモビリティ革命といわれる**社会変革に対応した取り組み**を進めます。

基本方針

都市づくりと連携し、誰もが乗りたくなる公共交通を実現

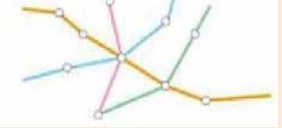
基本目標Ⅰ

主にまちなか・拠点間

選ばれる公共交通の構築 利用しやすい(意外と便利な)公共交通

ルート・運賃・ダイヤ

- ✓ 運賃、ダイヤの最適化を進めるとともに、多様な移動手段と連携して**利便性、採算性の向上**を図ります。
- ✓ 将来の公共交通ネットワークを見据えた**持続あるバス路線への最適化**を進めます。



基本目標Ⅱ

主に公共交通不便地域

セーフティネットとなる公共交通の確保 生活の基礎を支える公共交通

産学官民連携

- ✓ 地域の**輸送資源を総動員**して各地域の移動ニーズに応じた**共創型の移動サービス**を産学官民連携のもとで検討・導入を進めます。



基本目標Ⅲ

都市圏全域(市内全域)

新技術等を活用した移動手段のサポート 地域住民、来訪者の利便性の向上

- ✓ 交通サービス全体の利便性を高める**MaaSの構築**を推進します。
- ✓ **シェアリングサービス**(車・自転車等)の活用を検討します。
- ✓ **自動運転車両**の導入を見据えた取組みを進めます。



施策の展開例

《公共交通ネットワーク方針図》

自家有償旅客運送
 国に登録したNPO等が有償で輸送

タクシーとの連携
 既存のタクシー事業を活用した輸送

ボランティア輸送の高度化
 地域住民の共助(ボランティア)による輸送

地域の輸送資源を総動員
 福祉輸送、スクールバス、病院・商業施設等の送迎サービスなどによる輸送

ICカード
 キャッシュレス決済、運行情報のデジタル化等による利便性向上

バスロケーションシステム
 多様な移動手段

バス路線の最適化
 運行経路・ダイヤ等の見直し

既存交通+新モビリティ

Legend:
 基幹バス (Red line)
 支線バス (Blue line)
 鉄道 (Green line)
 地域内交通 (Yellow line)
 都心拠点 (Red circle)
 広域拠点 (Blue circle)
 地区拠点 (Green circle)
 地域生活拠点 (Yellow circle)

○令和5年度に施策の詳細を位置付けた利便増進実施計画を策定することで国の支援を受けるなど、事業実施に必要な財源を確保・活用しながら施策を展開します。

